

事業所名

ハッピーライフ3ぽいんと

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日

2025 年

2 月

1 日

法人理念	地域のライフラインであるための”おもろい”場所づくり				
支援方針	多彩な支援活動および体験・地域交流を通して、子どもたちの興味関心の幅を広げ、小さな「できた！」を積み重ねて自信に繋げること、他者と共に活動する中でお互いに気持ちの良いコミュニケーションを学んでいけるように支援します。				
営業時間	9 時	30 分から	18 時	30 分まで	送迎実施の有無 あり なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	【健康】健康な心と体であるため、日々の検温および障がいの特性、発達過程に配慮し小さなサインから心身の異変に気づけるよう観察を行う。利用中に体調の変化がある場合は適切な対処（例：医療機関へ受診、保護者へ状況を報告し、支援時間を短縮して送迎を行う等）を速やかに行う。 【生活】ご家庭と連携しながら食事・睡眠・衣類の着脱・排泄等、生活リズムを身に付け、基本的技能を獲得できるようにスモールステップで支援する。終わり時間を事前に伝え、タイマーや音楽で行動の切り替え、イラストや文字等の視覚ツールを使用して1日のスケジュールを確認するなど、障がい特性に配慮し時間や空間を分かりやすく構造化する。			
	運動・感覚	障がい特性や個人の運動能力・感覚機能を理解し、日常生活に必要な歩行や動作、姿勢を保持するための筋力の向上や感覚統合の促進に繋がる粗大運動や微細運動を取り入れた遊びや製作・クッキング活動を行う。（公園遊び、昼食・おやつ作り、季節の製作、触感覚遊び、自然とのふれあい、ダンス等） 感覚や認知の特性（感覚過敏や鈍麻、こだわり）や偏りを踏まえ、情報量をコントロールする等の環境調整を行う。			
	認知・行動	個人に合わせて感覚を十分に活用し、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す活動を取り入れる。スケジュールに沿って活動する中で時間を意識し、身近にある物（おもちゃ、文房具や調理器具など）に触れ、名称や用途、色や数、大小等の概念形成を図るための支援をします。 また、周りの環境や対人関係において本人の様子を客観的に評価し、認知の偏り等に配慮した上で助言や必要な支援を行い、適切な行動に繋がるように促していきます。			
	言語 コミュニケーション	発達段階・特性に応じて、言葉や身振り・指差し・サイン等の非言語コミュニケーションと、文字・写真・絵カード等のツールを用いて相手の気持ちを理解したり、自分の気持ちを相手に伝える力を育みます。 一人ひとりをきめ細やかに観察して、個人と環境の相互作用から成る感情を汲み取り、言語化や表現が困難な場合には気持ちを代弁し、場面や状況に合ったコミュニケーションの取り方や伝え方の工夫、言葉のチョイスや言い換えなどを助言し、相手と気持ちの良く関わる事ができるように支援します。			
	人間関係 社会性	スタッフ、事業所のお友だちと少しずつ信頼関係を構築し、安心して過ごせるように環境を整えます。集団活動に楽しく参加する中で簡単なルールや順番を理解し、相手の事を観察して考える想像力や協調性、思いやりを育みます。人と場所から始め、物・遊び・気持ちを共有する事で、対人意識を高めるきっかけを作ります。 公共の場を活用し、買い物体験や外食、施設や工場見学、他事業所との合同イベント等を通していろんな場所にお出かけし、様々な人と関わってたくさん経験を積むことで、場面や状況に合った振る舞いやマナーを身に付けられるよう、自立に向けた取り組みを行う。			
家族支援	子どもに関する情報の提供と家庭での様子の聞き取りによる定期的な支援の調整をする。 子育て上での不安や悩みに寄り添い、支援内容の検討・提案を行う。 定期面談・保護者交流会・親子イベントで活動の様子を共有する。	移行支援	学童保育や併用事業所との連絡調整を行う。また、必要に応じて情報の共有を行う。 合理的配慮を含めた進路先への情報と支援内容の共有をする。 本人・保護者様への相談援助を実施する。		
地域支援・地域連携	医療機関・児童相談所等の専門機関と連携をとる。 スムーズに生活が送れるように教育機関関係者と連絡調整や情報共有をする。 ケース会議・地域支援体制構築の会議へ参加する。	職員の質の向上	年間研修計画に基づき、定期的に全職員または管理者・対象者別の専門分野の研修を実施する。 ビジネスマナー・リーダーシップ研修・ハラスメント研修を実施する。		
主な行事等	(1月)初詣、餅つき大会 (3月)進級お祝いの会 (8月)夏祭り (10月)ハロウィンイベント (12月)クリスマス会 (他)スポーツフェスタ・自然散策・施設見学・クッキング・製作・運動遊び(ダンス)・公園遊び等				

事業所名

ハッピーライフ3ぽいんと

支援プログラム（児童発達支援）

作成日

2025年

2月

1日

法人理念	地域のライフラインであるための”おもろい”場所づくり				
支援方針	多彩な支援活動および体験・地域交流を通して、子どもたちの興味関心の幅を広げ、小さな「できた!」を積み重ねて自信に繋げること、他者と共に活動する中でお互いに気持ちの良いコミュニケーションを学んでいけるように支援します。				
営業時間	9時	30分から	18時	30分まで	送迎実施の有無 あり なし
支援内容					
本人支援	健康・生活	【健康】健康な心と体であるため、日々の検温および障がいの特性、発達過程に配慮し小さなサインから心身の異変に気づけるよう観察を行う。利用中に体調の変化がある場合は適切な対処（例：医療機関へ受診、保護者へ状況を報告し、支援時間を短縮して送迎を行う等）を速やかに行う。 【生活】ご家庭と連携しながら食事・睡眠・衣類の着脱・排泄等、生活リズムを身に付け、基本的技能を獲得できるようにスモールステップで支援する。終わり時間を事前に伝え、タイマーや音楽で行動の切り替え、イラストや文字等の視覚ツールを使用して1日のスケジュールを確認するなど、障がい特性に配慮し時間や空間を分かりやすく構造化する。			
	運動・感覚	障がい特性や個人の運動能力・感覚機能を理解し、日常生活に必要な歩行や動作、姿勢を保持するための筋力の向上や感覚統合の促進に繋がる粗大運動や微細運動を取り入れた遊びや製作・クッキング活動を行う。（公園遊び、昼食・おやつ作り、季節の製作、触感覚遊び、自然とのふれあい、ダンス等） 感覚や認知の特性（感覚過敏や鈍麻、こだわり）や偏りを踏まえ、情報量をコントロールする等の環境調整を行う。			
	認知・行動	個人に合わせて感覚を十分に活用し、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す活動を取り入れる。スケジュールに沿って活動する中で時間を意識し、身近にある物（おもちゃ、文房具や調理器具など）に触れ、名称や用途、色や数、大小等の概念形成を図るための支援をします。 また、周りの環境や対人関係において本人の様子を客観的に評価し、認知の偏り等に配慮した上で助言や必要な支援を行い、適切な行動に繋がるように促していきます。			
	言語 コミュニケーション	発達段階・特性に応じて、言葉や身振り・指差し・サイン等の非言語コミュニケーションと、文字・写真・絵カード等のツールを用いて相手の気持ちを理解したり、自分の気持ちを相手に伝える力を育みます。 一人ひとりをきめ細やかに観察して、個人と環境の相互作用から成る感情を汲み取り、言語化や表現が困難な場合には気持ちを代弁し、場面や状況に合ったコミュニケーションの取り方や伝え方の工夫、言葉のチョイスや言い換えなどを助言し、相手と気持ちの良く関わる事ができるように支援します。			
	人間関係 社会性	スタッフ、事業所のお友だちと少しずつ信頼関係を構築し、安心して過ごせるように環境を整えます。集団活動に楽しく参加する中で簡単なルールや順番を理解し、相手の事を観察して考える想像力や協調性、思いやりを育みます。人と場所から始め、物・遊び・気持ちを共有する事で、対人意識を高めるきっかけを作ります。 公共の場を活用し、買い物体験や外食、施設や工場見学、他事業所との合同イベント等を通していろんな場所にお出かけし、様々な人と関わってたくさん経験を積むことで、場面や状況に合った振る舞いやマナーを身に付けられるよう、自立に向けた取り組みを行う。			
家族支援	子どもに関する情報の提供と家庭での様子の聞き取りによる定期的な支援の調整をする。 子育て上での不安や悩みに寄り添い、支援内容の検討・提案を行う。 定期面談・保護者交流会・親子イベントで活動の様子を共有する。	移行支援	学童保育や併用事業所との連絡調整を行う。また、必要に応じて情報の共有を行う。 合理的配慮を含めた進路先への情報と支援内容の共有をする。 本人・保護者様への相談援助を実施する。		
地域支援・地域連携	医療機関・児童相談所等の専門機関と連携をとる。 スムーズに生活が送れるように教育機関関係者と連絡調整や情報共有をする。 ケース会議・地域支援体制構築の会議へ参加する。	職員の質の向上	年間研修計画に基づき、定期的に全職員または管理者・対象者別の専門分野の研修を実施する。 ビジネスマナー・リーダーシップ研修・ハラスメント研修を実施する。		
主な行事等	(1月)初詣、餅つき大会 (3月)進級お祝いの会 (8月)夏祭り (10月)ハロウィンイベント (12月)クリスマス会 (他)スポーツフェスタ・自然散策・施設見学・クッキング・製作・運動遊び(ダンス)・公園遊び等				